

【静岡県菊川市】

■市の概要

人口 47,824人(平成26年7月現在)

面積 94.24 km²

平成26年度当初予算

一般会計 176億6,200万円

特別会計 91億8,554万円

企業会計 79億7,405万円



視察日時	平成26年8月6日(水) 午後2時
説明者	小笠原議会運営委員長, 鈴木議員, 藤田議会事務局長 森下議会事務局主幹
調査概要	<p>【議会運営の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 条例定数 17人 (平成20年6月議会定数条例改正により22人から5人減) ○ 常任委員会 総務建設(9人), 教育福祉委員会(8人) ○ 特別委員会 一般会計予算決算特別委員会(17人) ○ 議会運営委員会 7人 ○ 質問・質疑・討論 <ul style="list-style-type: none"> ・ 代表質問 第1回定例会のみ実施, 会派を代表して1人(30分以内)。質問数は3議題まで(通告制)。初回のみ一括質問・答弁とし, 後は一問一答方式。 ・ 一般質問 質問数は3議題まで(通告制)。初回のみ一括質問・答弁とし, 後は一問一答方式。30分以内。 ・ 議案質疑 通告制により実施。質問回数は1議案につき3回まで。(時間制限なし) ・ 当初予算総括質疑 一般会計当初予算に対して第1回定例会のみ実施。会派を代表して1人が行う。 ・ 討論 通告制により実施。15分以内。

<p>調査概要</p>	<p>【政策討論会】</p> <p>政策討論会は議会基本条例に基づき設置され、全議員で構成されている。討論会の議事決定及び運営等を行うために各派代表による幹事会が設置されている。</p> <p>平成 25・26 年度について詳細な説明があった。議題の選定方法・討論会の進め方は年度ごとに若干変わっているが、概ね幹事会で議題の選定、各議員の意見発表、討論、意見集約、政策提案作成、理事者へ政策提案という流れである。</p> <p>平成 25 年度は 6 月から取り組み、防災をテーマに各議員が政策提案を行い、議論。それに基づき、有効性、実現性等の視点からさらに絞り込みを行い、分科会・全体会で検討し、都合 4 回の議論を経て 12 月に理事者に政策提案を行っている。その間、幹事会を 6 回開催し、テーマの絞り込み、運営方法、提案書の作成等に取り組んでいる。</p> <p>翌年(26 年) 5 月には政策提案を受け、理事者側から「市議会からの防災に関する政策提言を受けて」と題する回答があった。</p> <p>本年度は 4 月に第 1 回幹事会を開催し、テーマの選定等(7 月末までに 5 回開催)を行い、7 月 7 日、23 日の 2 回討論会を実施している。</p>
<p>所感</p>	<p>～ 政策討論会に関して ～</p> <p>昨年度は各会派から寄せられたテーマを早い段階で幹事会の協議により「防災」に決定したようであるが、今年度は各会派から提出されたテーマを 4 つに集約し、その中から各議員がそれぞれ提案書を作成するという方法をとっている。</p> <p>資料として各議員の提案書を頂いたが、多少の温度差はあるものの、一人ひとりがそれぞれの視点で各テーマを研究し、提言をまとめている。その真摯な姿勢に頭が下がる思いがした。</p> <p>坂出市の議会基本条例を検討する際、会津若松市が実践する「市民参加型政策形成サイクル」を念頭に、政策討論会のテーマは議会報告会等で寄せられた市民の意見をもとに決定すべきと考えていたが、議員自らが(もちろん市民との対話の中で得られたものも多いと思うが)より問題意識を持ち、政策としてまとめ上げるということも重要であると感じた。</p>

<p>調査概要</p>	<p>【議会報告会】</p> <p>4班体制をとり，1班は4人ないし5人で構成。1班が3会場ないし4会場を担当して市内11地区で年1回開催している。</p> <p>参加者数は，年度によって差異はあるが，1会場10人から70人程度で，合計は400人から500人。ここ3年間では，24年度・506人，25年度・437人，26年度（6月中旬から7月初旬に開催）・455人の参加者数である。</p> <p>広報に関しては，地区ごとに担当議員の顔写真入りの回覧チラシを作成して配布，議会だより・ホームページへの掲載，議員による周知，さらに連合自治会役員会に正副議長・議会報告企画委員会が出席して協力依頼を行っている。</p> <p>報告は当初，予算内容，政策等を行っていたが，より市民が関心のある内容にすべきと考え，現在はテーマを決めて報告している。</p> <p>26年度のテーマは，政策討論会より①「防災について」，総務建設委員会より②「社会資本整備の推進と課題」，教育福祉委員会より③「幼稚園・保育園の現状と課題」④「健康と医療」の4つのテーマで報告会を実施した。</p> <p>今後の課題としては，若い人や女性の参加を促すことが必要との発言があった。</p>
<p>所感</p>	<p>～ 議会報告会に関して～</p> <p>本市の議会報告会では理事者から提出された議案，市長の施策の説明を中心に，各委員会での議案に対する審議内容を含めて報告している。</p> <p>全国的に議会報告会が「市長の施策説明会」になっているのではという指摘がある中，各委員会がテーマを決めて報告するという方法は注目に値する。</p> <p>しかしながら，議会報告会という性質上，各定例会でどういう議案が提出され，それに対して議会がどう判断をしたかという説明（報告）は必要であると考えます。</p> <p>今後，市民の要望も聞きながら報告会の内容充実に努めたい。</p>

【愛知県大府市】

■市の概要

人口 88,550人(平成26年4月1日現在)

面積 33.64km²

平成26年度当初予算

一般会計 271億1,900万円

特別会計 106億2,238万円

企業会計 25億3,367万円



視察日時	平成26年8月7日(木) 午前10時～
説明者	鈴置議会運営委員長, 浅田議員, 長綱議会事務局議事課長 野崎議事係主任
調査概要	<p>【議会活性化の取り組み, 委員会活動の活性化及び機能強化】</p> <p>大府市議会は, 議会基本条例は未制定であるが, 条例制定よりも議会の具体的な改革に取り組んでおり, 議会活性化特別委員会を中心に, 身近な改善を続けることで議会改革に邁進している。</p> <p>最近の取り組み(その1)として委員会の年間テーマを決め, 関係団体との意見交換→議員間協議→行政視察→議員間討議→政策提案を行っている。</p> <p>最近の取り組み(その2)として, 予算→決算審査のPDCA深化等を図っている。</p>
質疑応答	<p>Q. 委員会の年間活動テーマは, どのようにして決めるか。 A. 委員会の中で身近なテーマの意見を出し決めている。</p> <p>Q. 委員会の勉強会(委員協議会)の開催回数は。 A. 約1回/月以上開催している。</p> <p>Q. 議会報告会を開催していない理由は。 A. 議会報告会の代わりに, 市内の団体(市民等)との意見交換会を委員会単位で開催している。</p> <p>Q. 議員への事務連絡等の通知はメールのみか。 A. メールと紙ベースの両方で行っている。</p>

所 感

大府市議会は「改革を大上段に振りかぶることなく，絶えざる改革が議活性化！」と身近なテーマを選定し，委員会単位で活動する議会改革は，本市も参考にすべき点が多くあると思われる。

また，予算→決算審査のPDCA深化は，本市も参考にし，ぜひ取り入れられたらと思う。

庁舎は，平成12年に建設し，その費用は75億円。さすがに素晴らしい庁舎だった。世界のトヨタの財力がバックにあり本市とは違いすぎる。

健康都市大府として，スポーツも盛んな市であり，女子レスリングの吉田選手，伊調選手，柔道の吉田選手等を輩出しており，オリンピックでの金メダル10個獲得は，実に素晴らしい。



【滋賀県大津市】

■市の概要

人口 342,343 人(平成 26 年 4 月 1 日現在)

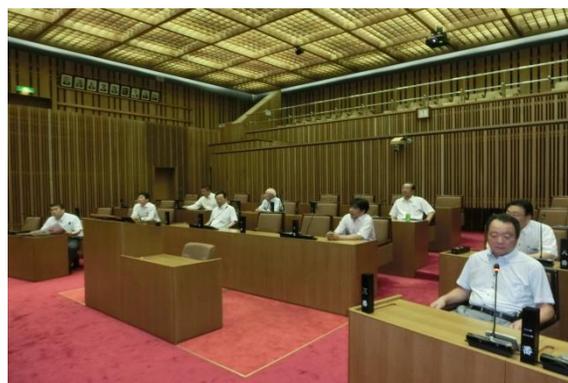
面積 464.10 km²

平成 26 年度当初予算

一般会計 1,131 億 6,500 万円

特別会計 614 億 1,890 万円

企業会計 696 億 8,027 万円



視察日時	平成 26 年 8 月 8 日 (金) 午前 10 時
説明者	鷺見副議長, 藤野議会事務局議事調査課長補佐 目方議会事務局議事調査課副参事
質疑応答	<p>【議会改革の主な取り組み】</p> <p>Q. ICT化について, タブレット端末を導入しようとしているが, 議案, 資料等は見られるようになるのか。</p> <p>A. 今, 見積もり段階で運用面ではまだ決定していないが, 議案, 予算, 決算書はペーパーレス化したい。また, サーバーについてはメンテナンス等勘案して, クラウド方式を導入予定である。</p> <p>Q. 通年議会について, 定例会の招集及び閉会はどうなるのか。</p> <p>A. 定例会の招集は, 5月1日で, 翌年4月30日までの1年間。定例会招集会議は5月に開催し, 正副議長ほか議会役員の改選を行う。通常会議は年4回開催で, 議会運営委員会で年間スケジュールを決定する。通常会議の詳細な日程は, 開会予定日の1週間前の議会運営委員会で決定する。特別会議の日程は, 市長からの要請を受けて, 議会運営委員会で決定し, 1週間以内に開催する。滋賀県議会で, 参考人として大津市議会の通年議会について内容を説明した際, 「今までと変わらないのでは?」と問われたが, 大きな違いは, 補正予算に対する考え方で, 市民に必要な予算は早く出すという考えから, それまで補正予算の議案が年5号くらいだったのが, 通年議会にしてから12号に増えた。3月31日の特別会議は, 主に国の税制改正に伴う条例改正で, 土曜日, 日曜日, また, 夜遅くなっても開催している。ただし, 理事者側の出席は, 市長, 副市長及び総務部長である。</p>

質疑応答

Q. 政務活動費の支給方法と管理について。

A. 会派に支給し、管理は会派で行う。最終は担当書記がチェックし、残金があれば返却する。

Q. 議会報告会の班構成が、何故、常任委員会ごとの4班になったのか。そして、各班1カ所で4カ所実施したが、少なくなかったか。

A. 大津市は南北に長く、支所も36ある中で、事前の検討、準備が十分にできないうちに、報告の日を迎えてしまった。

Q. 議会報告会において、パートナーシップ協定を締結している大学の紹介で、ファシリテーターを利用されているがどういうものか。

A. 他の自治体の議会報告会を見にいった感じは、終盤に近づくとも要望などの発言が多くなり、最後の仕切りが難しいということであった。そこで、ファシリテーターとは本来は、質問を仕分けする人であるが、専門的知識を持つ人に司会も依頼した。報告会の最初に、資料と質問用紙を渡し、途中で休憩時間を取って、質問用紙を書いてもらい回収した。質問を上手く整理してくれたおかげで、最後はスムーズにできたが、スムーズ過ぎて淡白になった感があり、少し反省する点でもある。

【政策検討会議】

Q. テーマの選定方法及び会議の年間の開催回数は。

A. 正副議長及び活性化検討委員会のメンバーも1年で交替するので、前年の積み残し事案＋会派から持ち寄った今年度の新規提案→会派の提案説明→議論→テーマの絞り込み→活性化検討委員会→議会運営委員会→議長へ答申して決定する。ちなみに平成25年度の積み残しはないので、26年度は新規に図書室の充実になった。会議の開催回数は、年間8～10回程度である。

Q. 条例化するためには、議員並びに事務局も大変だと思うが。

A. 条例制定には、法律の専門知識が必要であり、事務局職員1名を増員（総務課の法務担当者）。今年度は2つの条例制定に向けて取り組んでいることから、さらに1名増員してもらった。最初に条例素案は、正副座長が作成し、政策検討会議で示す。それを会議

<p>質疑応答</p>	<p>で一条ずつ加筆，修正していくようにしている。そのために，大学とパートナー協定を締結し，専門的知見を活用させてもらっている。現在，会議の開催は，月2回のペースである。</p> <p>Q. 議員提出議案が多いのは何故か。</p> <p>A. 政策検討会議で出された条例制定もあるが，理事者側から出される議案に対する修正案が多いのが現状である。</p> <p>Q. 議員の推薦入学とはどうなっているのか。</p> <p>A. 龍谷大学との締結の中で，審査はあるが優先的に大学院に推薦入学させてもらっている。実績として1名入学している。逆に，議会では，政治家志望の大学院生の議員インターンシップを会派で受け入れ，一般質問の作成や駅立ちのビラ配り，後援会活動等，議員と一緒に動いて，議員活動を肌で感じてもらっている。今年度は立命館大学から5名受け入れた。</p> <p>Q. メンバー構成は座長を除いて，一人会派も含めて各会派1名，計9名となっているが，大会派の不満はないのか。</p> <p>A. 非常に民主主義でやっているので問題はない。</p>
<p>所感</p>	<p>議会基本条例の制定に拘らず，平成21年度から議会改革できるものからやっっていこうという考えで実施し，着実に成果を上げている。また，議会基本条例はその集大成という位置づけで，平成27年2月制定に向けて，現在検討していることから，条例の内容が楽しみである。</p> <p>2013年第8回マニフェスト大賞において，全国の議会のトップとなる議会グランプリと最優秀成果賞を獲得した。活性化の取り組み，条例制定及び大学との連携などが評価されたものである。なかでも，会派を超えて議会が一つになって政策提言に向かっている点が，最大の評価である。そのほか，月刊「ガバナンス」にも何度か掲載されて，注目を集めているが，それに甘んずることなく，次のステップに向かって，活性化を継続していることも素晴らしい。</p>

所 感

大学との連携においては、専門的知見の活用とともに、議員研修会の講師依頼など、また、逆に学生のインターンシップの受け入れなどによって、Win-Winの関係を構築しており、非常に良いと思う。

また、議会報告会でも、ホームページを見る限り、レベルは高いが、もっと検討を加えて、市民ともっと良い報告会・意見交換会にしていこうとする姿勢は評価できる。

細かい点をいえば、議事運営ルールにおいても、「申し合わせ」、「先例による」ものが多く、市民が知らないようなものは、会議規定で定め、「見える化」を図るなど市民本位を貫いている。

大津市議会には学ぶ点が多く、非常に有意義な視察であった。学んだ中から、できるものから順次検討し、議員全員で実施していきたい。

